

戦争が二度とあまらぬように

読谷小学校 六年一組

大城 妃莉

76年前、アメリカ軍が、沖縄を攻めてきま

した。中部の読谷村から入り、次々と人々を

殺していきまされた。そして、いろいろな所

はくたぐんが落とされ、またたくさん人々が

亡くなっでいきました。

この話を聞いて、学んだ事があります。そ

れは、戦争は二度と起こしてはいけません。

という事です。なぜなら、戦争は、たくさん

の人々を巻きこんで、たくさんの人々が亡く

なっでしまっからです。そくな、人々の家

族や友達かとも悲しみます。そのようにな

事は、二度と起こしてはいけませんからです。

そして私は考えさせられた事があります。

それは、なぜ話し合いをせず、すぐに戦争

を起こしてしまったのか。という事を考えま

した。なぜなら、ケニカをして、すぐに手

出してしまわなっで、話し合っで、仲直りを

して、解決をするというのの同じようにす

ぐに戦争に行く、の下はなく、話し合いをか
さぬた上で、解決を目指す。という事でも、下
またの下はたいかと考えました。なので、も
う戦争はせず、しっかりと話し合って、解決
をしてほしいと思います。

また、疑問にも思っただ事があります。それは、
なぜ罪のない人々を巻きこんでまで戦争を
起したのか。罪のない人々を巻きこまずに戦
争を起こした人と同じで、他の方法を使って、
解を出さたんじやないのか。という事です。

罪のない人々を巻きこんで戦争をするのでは
なく、戦争を起そうとした人たちで、何にか
たくさんの人々を巻きこまずにすむ方法が
あったので、やないか？と思いました。

解決する方法は、他にもあつたはずですが、
たとえば、話し合いをするや、お互い意見や意思
が、ちがっていても、互いにゆずり合い、理解
し合う事も大切な事だと思ひます。みんなの
それぞれを理解する事も大切と感じました。

そうして、私は、この戦争の話について

感動した事がありません。それは、今私が生
ている事のありがたさ。そして、戦争の中で
も、命をうけついでくれたという事、この2
つです。戦争体験をしていても、どんな命
を犠牲にしてくれたか、とありがたさを感じま
した。戦争が二度と起きないでほしいと思
いました。